

開通五十周年の記念に

明るいアルプス山小屋風

東武日光の新駅舎完成

東武日光線が開通して、ことしは五十年目に当たります。東武鉄道ではこれを記念して、東武日光の駅舎を全面改築、アルプスの山小屋風新駅舎が、九月末に完成しました。

十月一日、新駅舎完成を祝って市が建てた駅前歓迎塔も除幕、公設の観光案内所も構内にオープンして、東武日光駅は、日光の表玄関の一角にふさわしい装いが整いました。また、ミス日光の高橋恵子さんも一日駅長を務め、新駅舎完成を祝いました。

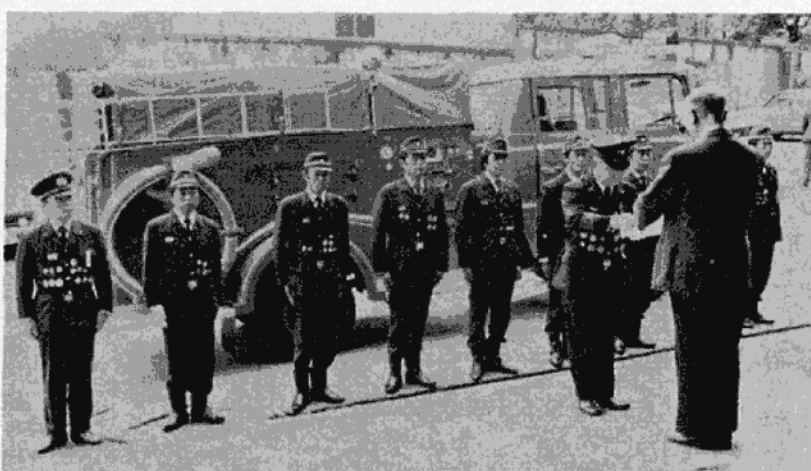
新駅舎は、総工費三億二千六百万円をかけた鉄骨造り、一部鉄筋コンクリートの二階建て、延べ約千二百六十六平方メートル。スイス風山小屋を思わせる大屋根のスマートな建物です。

一階には、駅事務室と出改札施設、待合室、売店。それに市と観光協会の観光案内所、東武トラベル、バス出札所などがあり、二階は、軽食関係店舗と駅職員施設になっています。



完成した東武日光新駅舎と歓迎塔

新駅舎完成を祝って、市が建てた歓迎塔は、十月一日に、市長とミス日光によって除幕されました。塔は、高さ六メートル、幅八十センチの四角柱で、屋根は銅板ぶき、柱は鉄骨で朱色に塗られ、日光らしさを表現して、上部は社寺の屋根がアレンジされています。来年の栃ノ葉国体をはじめ、大きい行事などに、駅前歓迎塔として活用されることになっています。



駅前歓迎塔も

除幕

一日駅長の行事には、ミス日光の高橋恵子さんが当たり、駅長さんの帽子をかぶってロマンスカートの発着に手をあげて合図をするなど観光客に新駅誕生をアピールしました。

日光インター

近くに

歓迎アーチ

日光へやって来る観光客のうち自動車を利用するものが、年々増加していますが、その大きい動脈は、国道一九号線と、高速の日光・宇都宮道路からの入込です。市では、日光・宇都宮道路からのお客に対する「歓迎アーチ」を、このほど日光インターを出てすぐ



完成した歓迎アーチ

の道路に建設しました。道路をまたぐ半円形の大きなもので、高さ七・一メートル、幅一六・八メートルの鉄パイプ製。見やすい道路案内板がつけられています。

第五分団に

最新鋭ポンプ車

十月八日、市役所前広場で、日光市消防団の第五分団(中宮祠班)に、最新鋭のポンプ車が引き渡されました。

引き渡されたポンプ車の出力は百七十馬力で、ポンプは毎分二〇リットル(ドラムかん二十本分)の水を放水できる性能があります。また、寒冷地としての特異性を考え、これまでになかった後部座席を設け、暖房を設備し乗員の安全をはかっています。

ポンプの引き渡し式